学習まとめ「青谿書院記」2　令和5年10月7日（担当　繁子　逸郎　正）

原文

所レ倚曰二源氏一、所レ対曰二夜氣一、間有二流泉一、曰二青山川一、青谿之所二由名一也、沿レ谿而上二里許、有二青山村一、山農數十家、擁二蔽林樹一、微露二屋角一、推レ窓而望レ之、則宛乎如レ仰二仙區乎縹渺之際一矣、還而憑レ欄則鷹巣巖竦二于其北一、進美赤崎之諸山横二于其東一、而蓼川之水向レ巖而注、又折而東矣、青郊白沙遠林深叢、映二帶乎其左右一、於レ是乎春則愛二其新緑一、夏則迎二其涼風一、秋而黄葉爛漫、冬而氷雪皎潔、若乃朝焉含レ雲吐レ煙、變態不レ窮、暮焉夕陽回レ光、瀟灑清迥、而又寥廓幽遠矣、

読み

倚る所を源氏と曰い、対する所を夜氣と曰う、間に流泉有り、青山川と曰う、青谿の由って名づくくる所なり、谿に沿って上ること二里許り、青山村有り、山農數十家、林樹に擁蔽され、微かに屋角を露わす、窓を推して之を望めば、則ち宛乎として仙區を縹渺の際に仰ぐ如しかな、還りて欄に憑れば、則ち鷹巣巖其の北に竦たち、進美赤崎の諸山其の東に横たわる、而して蓼川の水は巖に向って注ぎ、又折れて東す、青郊白沙、遠林深叢、映帶乎其左右に映帶す、是においてか春は則ち其の新緑を愛し、夏は則ち其の涼風を迎え、秋にしては黄葉爛漫、冬にしては氷雪皎潔たり、若し乃ち朝には雲を含み煙を吐いては變態窮らず、暮には夕陽光を回らし、瀟灑清迥にして、又寥廓幽遠なり。、

訳文

（青谿書院の）建っている所を源氏山といい、対面する山を夜気山という。その間に泉の流れがあり、青山川と言っている。「青谿」の名の由来である。谿に沿って上ること二里許りの所に青山村がある。山仕事や農業している家が十軒ほど、林樹に囲まれ、辛うじて屋根が出ている。書院の窓を上げてみると、あたかも仙人の住むところを遠くはるかに見るようだ。我に返って、窓ぎわに寄ると、鷹巣巖が北側にそびえており、進美山や赤崎の山々がその東に横たわっている。そして、蓼川の水は巖に向かって流れ、そこでまた折れて東に流れている。青い野原や白い川辺の砂や遠くの林や近くの森がその左右に引き立てあって映っている。

青谿書院においては、春は其の新緑を愛で、夏は則ち涼風を迎え、秋になると黄葉爛漫になり、冬には氷雪が清らかとなる。朝には雲が出て霞がただよい、尽きることがない。、暮には夕陽がさして清らかで、ひっそりとしてその景色は奥深さが感じられる。

言葉

擁蔽＝ヨウヘイ　おおいかぶさる

宛乎＝エンコ　宛＝まるで　　乎＝強調・感動・疑問

縹渺＝ヒョウビョウ　遠くかすかではっきりしないさま

憑欄＝欄に憑よる（手すりによりかかる

竦＝ソバダツ　叢＝くさむら

于＝ココニ　ニ

※漢文の置き字　栂井さんによる

「於」「于」「乎」

漢文では上から修飾するが、これらは下から修飾する　修飾語、前置詞。対象、場所、状況など示す（英語のinやatみたいなも　の）　直後の語に助詞「ヲ」「ニ」という送りがなで表現する。漢文の原　則として、助詞は送りがなで表現するので、置き字自身は読まない。

映帯＝景色などが互いにうつり合う　宛乎＝エンコ　宛乎

皎潔＝コウケツ　白くけがれなくきよらかなこと

瀟灑＝ショウサイ　清くさわやかなこと

清迥＝セイケイ　遠くはるかなこと